

体育家庭教師サービスの特徴

Characterizing tutors for physical education

1K08A103-1 阪口純

指導教員 主査 中村好男先生 副査 岡浩一朗先生

【緒言】わが国では、運動不足がさまざまな問題を引き起こしている。子どもが生活習慣病に罹患することが示唆され、その要因としても挙げられている。子どもの運動量も不足しているのである。子どもの運動する環境はスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブの発展により、良い方向に進んでいる。しかし、このようなスポーツクラブに加入していない子どもたちも存在している。そこで、高齢者を対象とした研究から興味深い結果が得られている。高齢者を対象としたパーソナルトレーニングによって、ほぼ全員の身体機能の改善がみられたのである。高齢者と同様に、子どもにおいても発育発達段階に応じて個々の状態に大きな差が生まれていることから、子どもを対象としたパーソナルトレーニングの必要性も高いと考えられる。わが国において、近頃、体育家庭教師サービスというビジネスモデルが注目を集めている。運動部や地域スポーツクラブとの違いは、個人指導（パーソナルトレーニング）をおこなうことである。本論文では、体育家庭教師サービスの指導者への半構造化インタビューを通して、体育家庭教師サービスの特徴を明らかにし、今後の在り方について考察する。

【方法】体育家庭教師サービスの指導者として従事している、または、従事していた経験があり、調査への同意が得られた4名を対象に調査をおこなった。調査対象者に対して、半構造化インタビューをおこなった。その録音データから作成した逐語録をもとに、体育家庭教師サービスの「良いところ、うまくいったこと」と「良くないところ、うまくいかなかったこと」の2つのテーマについて意味内容の類似性からサブカテゴリーを命名し、さらにそれを括ってカテゴリーを作成した。

【結果】以下に、【カテゴリー】とそれに関する＜サブカテゴリー＞の順に示す。良いところ、うまくいったこ

とは、【身体的支援】＜練習効率の向上＞＜コンディションの調整＞、【精神的支援】＜主体性の獲得＞＜相談＞の2つのカテゴリー、4つのサブカテゴリーに分類された。良くないところ、うまくいかなかったことは、【指導方針】＜利用者＞＜指導者＞、【環境】＜個人＞＜場所＞の2つのカテゴリー、4つのサブカテゴリーに分類された。

【考察・結言】本研究により、体育家庭教師サービスは、練習効果の最大化、練習意欲の向上を図り、指導者と利用者および練習場所によって制限されるという特徴を持つものであることが明らかとなった。練習効果の最大化、練習意欲の向上については、いかなる利用者にとっても有益であり、体育家庭教師サービスの利点となっている。しかし、指導者と利用者および練習場所によって制限される点について利用者は考える必要がある。まず、公園などにはない設備を必要とするものについては多くの費用が必要となることに注意しなければならない。集団で利用するのではなく個人で利用するには負担が大きくなる。また、利用者の要望に見合った指導者の能力を保証するものはない。利用者が指導者を評価する必要がある。そして、個人指導で経験できないことの経験を積みたい場合は、集団指導のクラブや学校の授業などで経験する必要がある。体育家庭教師サービスでできることとできないこと知る必要がある。個人指導と集団指導はどちらにも利点と欠点がある。これらを相互補完的に活用することで互いの利点を得ることができると考えられる。本研究では、半構造化インタビューを用いることで指導者の視点から体育家庭教師サービスの特徴を明らかとなった。体育家庭教師サービスには指導者と利用者が存在しており、体育家庭教師サービスがどのような目的で利用され、どのような効果が出ているのかを利用者の視点から明らかにすることが今後の課題として挙げられる。